

目と目を合わせて

中部中・3 羽根 結梨

「はい12枚ひいてね」

そんな言葉を聞いて私は呻き声を上げながら山札からカードをとった。

「二人でいるのにスマートフォンばっかじゃん」

そんな一言から始めた二人だけのウノ。何年もやっていなくて、引き出しの奥底にしまっていたから存在する忘れてしまっていた。一番最後にやったのは10年ほど前だろう。10年も前だから、ルールも忘れてしまっていた。

「これは一緒に出せる？」

ときくと友達は

「出せるよ」

と目を見て丁寧に教えてくれた。

多くの子供がスマートフォンを手にするようになって、人と目を合わせて話すよりも、スマートフォンの画面やゲーム機の画面とにらめっこをすることが多くなった。私も小さい頃からお母さんにお下がりでスマートフォンを貰って夢中になって、話すことは出来ても目を合わせることが苦手になっていた。

「ウノ」

と目を見ていうと、友達は焦った顔をして

「あと一枚？はやすぎ」

と返してくれた。目を合わせることを意識した瞬間日々の授業での出来事を思い出した。国語の授業では隣の人と向き合って目を合わせてみてと言われたけれど、目を合わせることが苦手な私は2秒もしない間に目をそらして違う方向を見てしまった。国語だけじゃなく

て、英語のスピーキングテストでも評価ポイントの中に相手の目を見てとあったが先生の目を合わせられなかった思い出がある。相手に何を思われているのかを考え出すと、だんだん不安な気持ちになってしまい、恥ずかしさも重なって、つい目を逸らしてしまう。自分ではしっかり話を聞いているつもりでも目を合わせられないせいで気持ちがうまく伝わらないのではないかと心配になる。

その一方で、テーマパークで出会ったキャラクターとは自分に自信を持ち自然に目を合わせることができた。キャラクターは言葉を話すことができないからこそ、目を合わせることで気持ちが伝わっていると感じられた。そのとき私は、言葉がなくても心がつながるのを感じた。

これは世界中どこでも通じる大切なことではないかと思う。たとえ言葉や文化、種族や言語が違っていても、目を合わせることは誰にでもできる共通の方法だと思う。話すときにほんの少しでも相手の目を見て向き合うだけで、相手に安心感を与えたり、自分の気持ちを伝えたりすることができる。その一瞬の目の合い方が、心と心をつなぐ大切なきっかけになる。

私が最後の一枚を出し終わったあと友達から、

「すぐ終わっちゃうからエンドレスウノにしよ」

と提案があり、どちらかの持ち札が終わる度に五枚引いたり、楽しく遊ぶ工夫をよく考えてたった二人だったけど、一回のプレイで十分くらい遊んだ。

昔から友達と遊ぶことが少なかったけど、家族全員と自然に目を合わせて、ウノ大会をしたりトランプ大会をしたりしていた。けれど私が大きくなるにつれ家族が忙しくなった遊び相手がいらない私はトランプを一から順番に並べていた。だから私にとってカードゲームは大好きなゲームだと感じていたけれど、自分のスマートフォンを手に入れて、その大切に大好きな気持ちも忘れてしまっていた。友達とウノをした時に、大好きだったカードゲームをしている時の

ワクワクや驚きが自分の中へ帰ってくるようなそんな感覚がした。カードを出す度に笑い声が溢れて、勝ち負けとかよりもその時間がないよりも楽しくて。

「私高校生になったらウノ持ち歩く！」

と変な発言をしても友達は笑って、

「いいじゃん、友達増えるし人気者になれるよ」と言ってくれた。

以前、スマートフォンで動画を見ていたら目の前に人がいるのにスマートフォンでメッセージアプリを使って話しているという動画が流れてきた。その時の私はそんな人もいるんだなと軽く流していたが、今思うとなぜ目の前に目を合わせて心を通わすべき相手がいるのに、スマートフォンに言ってもらっているのだろう。本当に伝えたいことは自分の口から目を見て言うべきだと。カードゲームをすることで何が養えるのか気になって調べてみたところ、集中力や思考力、記憶力がアップし、さらに五感も鍛えられることがわかった。カードをめくるときの緊張感や、相手の出方を考える時間は、自然と集中力や判断力が必要になる。どのカードが出たかを覚えておくことで記憶力も使うし、色や形を見分けたり、相手の表情を読み取ったりすることで五感も磨ける。けれど、小さいうちからカードゲームをせずに画面とにらめっこばかりをしていると、これらの力を鍛える機会が減ってしまう。スマートフォンは知りたいことをすぐに知れるし、簡単に人と繋がるのが出来て便利だけれど、それは人と直接かわる機会が少なくなったり自分の頭で考えたり覚えたりする機会が少なくなるといってもある。だからこそ、人と関わりながら遊ぶカードゲームは大切な意味があるのだと思った。「カードゲームってただのゲームでも人と人とを繋いでくれるものなんだね」

それから私は少しずつ人と目を合わせることが意識している。でも、苦手なことを克服するのは簡単なことではない。最初からずつ

と目を合わせ続けるのは難しいから、「昨日よりもほんの一秒でも長く人と目を合わせてみよう」と少しずつ挑戦している。その一秒が積み重なれば、きつと大きな変化につながる。言葉だけでは伝えきれない思いも、視線を通してお互いに感じる事ができる。スマートフォンによってメッセージのやり取りができる今の時代だからこそ人と向き合い、目と目を合わせて。